

「検査情報と連結されたレセプトデータを用いた疫学研究」の実施について
(審査番号 2019171NI)

本研究室では、東京大学大学院医学系研究科・医学部研究倫理委員会の承認のもと、「検査情報と連結されたレセプトデータを用いた疫学研究」を実施しています。

【研究の背景と目的】

本研究では、メディカル・データ・ビジョン株式会社(MDV)が有償で提供する個人情報が辿れない状態に匿名化されたDPC(包括支払い)データ、検査値データ(以下、MDVデータ)を用います。MDVデータは、DPC制度導入病院から作成されたもので、DPCで算定された外来・入院レセプト、検査値データを含みます。個人レベルでDPCデータと検査値データがリンクされています。これまで国内外において、レセプトデータ単独の臨床疫学・経済分析に関する研究は蓄積されています。しかし、検査値データと外来・入院レセプトデータをリンクさせたデータを用いた臨床疫学・経済分析の先行研究はほとんどありません。

本研究は、MDVデータを用いて、まず投薬を含む治療行為の効果の比較分析を行い、次に検査値異常者の受診継続状況と、それに関連する要因の分析を行います。さらに各検査値と、疾患の増悪による入院イベントの発生頻度との関連についての分析を行い、検査値を用いた予後予測モデルの作成を行います。最後に、開発された統計手法を実データにあてはめ、手法の実用性について検討することを目的とします。

【研究の方法】データソース

2008年4月から2018年12月までの10年分のMDVデータを用います。DPC制度導入医療機関への受診により発生するレセプト及び検査値データが含まれます。

【データ使用環境】

MDVデータはすでに個人情報が辿れない状態に匿名化されています。データが格納されたハードディスクをMDVから受領し、研究代表者の所属する生物統計情報学講座教員室でインターネット接続されていないスタンドアローンのコンピューターにデータを保存します。教員室はテンキー錠を用いて常時施錠され、教室スタッフのみが入室可能となっています。サーバー・コンピューターとVPNネットワークでつながれたシンクライアント端末を設置し、その端末上でデータ分析を行います。

【結果の報告について】

研究の結果は国際医学雑誌・国内医学雑誌及び学会報告を通じ社会に還元します。なお、成果物以外のレセプト情報等は、管理領域から持ち出しません。

【倫理的配慮】

本研究は、東京大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の承認の上、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の生物統計家育成事業の資金にて実施されます。なお、開示すべき利益相反はありません。

【資金】

課題名：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の生物統計家育成事業

代表者名：東京大学大学院医学系研究科 教授 松山裕

【不明点に関する連絡先】

東京大学大学院 医学系研究科 生物統計情報学講座 特任教授 小出 大介住所：東京都文京区

本郷 7 丁目 3 番 1 号 電話：03-3815-5411 内線 34400